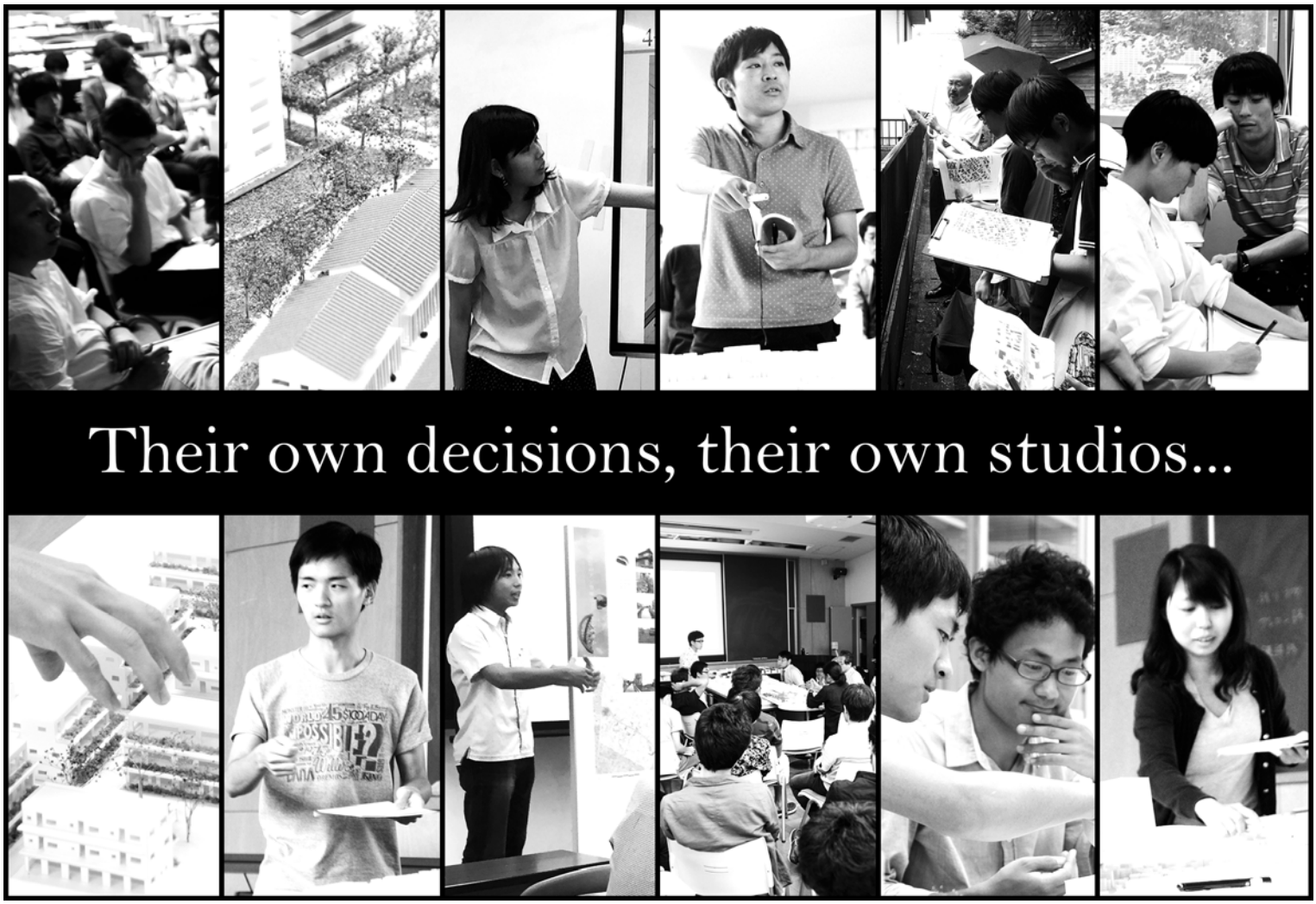
UrbanDesignLab.Magazine

2015.7.31 vol. 231



スタジオ課題の、その先へ。

GOING BEYOND THE STUDIO EXPERIENCES

彼らの選択、彼らのスタジオ。p.2
特色ある３つのスタジオ p.5
留学生からの報告 p.8
個性あふれるメンバーが加わりました！ p.10
暑気払い BBQ 実施！ p.11

東京大学
工学部都市工学科／
工学系研究科都市工学専攻
都市デザイン研究室

http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/

今月の編集担当：中島 健太郎　砂塚 大河
編集長：　今川 高嶺
編集委員：中島 健太郎 高橋 舜 中井 雄太
黒本 剛史 砂塚 大河 富田 晃史 王 誠凱

彼らの選択、彼らのスタジオ。

Their Own Decisions, Their Own Studios...

都市デザイン研究室のメンバーのバックグラウンドは極めて豊かである。今年度のM1の顔ぶれをみても、８人中６人がもともとの専攻を離れ他学部から入学している。今回は、夏学期の間、学部３年の設計演習である「地区開発計画演習」に奮闘したM1川田（経済学部出身）、富田（工学部機械工学科出身）、森下（農学部出身）の３人にスポットをあて、TAであったD1矢吹さん、M1黒本を交え座談会を行った。自らの進路として「都市工学」を選択した彼らがスタジオを終えて、いま思うこととは…。

（編集：M1砂塚）

ー演習を終えた率直な感想

黒本：演習をとってみて率直な感想は？

川田：最後の一週間がきつかった（笑）

黒本：当時はプロジェクトで福島にも行ってたしね。お疲れさまでした。

森下：もっとうまくやれたなあというのが率直な感想かな。ぜんぶ出し切れなかった感がある。

黒本：もっと時間をかければ作り込めたってこと？

森下：時間配分などの計画性もそうだし、内容としても未消化のまま終わってしまったという悔しい思いがあるね。

富田：僕も悔しいという気持ちがある。ちゃんと完成させたかったが、「銭湯」というコンセプトに引っ張られすぎて、案全体が中途半端になってしまった。

ー演習で楽しかったこと

黒本：ネガティブな感想が多かったけど（笑）、逆に楽しかったこととか演習中の思い出は何かある？

富田：前半の事例見学で、集合住宅っていろんなタイプがあるんだなって、そういう視点で見るのが初めてで、何もかも新鮮で楽しかったし勉強になった。あとグループワークで話し合って発表するということは、前の学科ではなかったことなので、グループワークでの自分の立ち回りなどを知るいい機会になった。模型の作業もつらかったけど、だんだん慣れてきて綺麗に作れるようになってくると結構楽しかったですね。

森下：総じて楽しかったな。つらい時期がすごく長かったけど、でもその状況がむしろすごく楽しかった。学部の時にもしんどいレポートはあったけど、楽しくもなんともなくて、何やってるんだろうと思いながらやっていた。今回の演習では、具体的に手を動かして作業するのもそうだし、都市工学という領域の方が面白かったというのもあって、すごく学んでいるという気持ちがした。

川田：空間を個々人の生活単位で見るっていう経験がなかったから、事例研究を通じて新たな視点を獲得するプロセスは楽しかったし、そういうふうにマンションだったり町を見ることが出来るようになったのは良かった。あと、前半のグループワークでのフィールドワークがメンバーも良くてすごい楽しかった。まちに出て空間の使い方を調べたり、区役所で地域の様々な課題を聞いたりすることで共通の問題意識に繋がり、グループ発表もうまくできたと思う。

ー苦労したこと

黒本：苦労したこと、難しかったこととかはある？

森下：難しかったことしかないけど（笑）。設計図とか模型を作るよりも前にまずコンセプトがあると思うけど、それを見つけるために地区研究をやったところでコンセプトはうまく見つけられないままだったし、思いついても定まってない気がして戻ったりとかして、頭がごちゃごちゃする難しさは感じたね。

矢吹：そういうときはどうやってコンセプトを深めていった？三人で話したり？

森下：それはあまりなかったですね。あったらよかったなと。お互いエスキースしあったりした方がより良い提案になったとは思います。

黒本：今後はどんどん物申していこうということですね（笑）。

富田：スケール感をつかむのが難しくて苦労した。1:500で平面図を書いて1:200に移った時に、ここってこんなに広いスペースなんだ！と思って、そのギャップが大きかった。あと図面を模型にするときにも、建ち上がるとこれぐらいの大きさになるんだ！っていうギャップもあった。そういうギャップがどうしても埋まらず、最後までスケール感をつかめなかったのですが、そういうのはやっぱ慣れなんですかね？

矢吹：慣れもあるし、気になった空間の面積とか基準になる面積の数値と身体感覚を照らし合わせていくといい。街の中でも、この街路が幅員いくつだろって予想して、あとで図ってズレを見たりとか修正したりしていくと、ぱっと見て大体わかるようになっていくし。

森下：講評の時窪田先生も、普段の生活の中で常にそういう目を持つことが大事と仰っていて、その通りだと思った。

矢吹：そういう視点で空間を見るようになったということは大きいね。

川田：難しかったことは、この空間が居心地が良いのか悪いのか最後までわからなくて…。エスキースでもここが良い悪いって指摘して頂いたんですが、それもいまいち感覚的によく分からなくて直し方が難しかったし、最後まで自分の身体感覚として得られなかったと思う。

黒本：ただ、居心地が良いと感じるか悪いと感じるかって結構個人差があるものだよね。都市って公共的なものだからたくさんの人が居心地が良いと感じるものじゃないといけない気もするけど…。難しいところだね。

ー出身学部との違い

黒本：みんなバックグラウンドが様々だけど、自分がいた学部と違うところって何かある？

森下：出身は農学部農業経済なので全然違うんですけど、今までは演習は基本的に農作業実習だけであとは講義だったので、都市工の演習のように答えが決まっていないものを一から考えていくものは、なかったかなあと思っている。

川田：経済学部とは同じ所はほとんどない。各個人や地域の効用を上げようという最終的な目標は同じかもしれないけど、そこに行きつく方法や評価の仕方が全然違うと感じている。経済は制度的な改革によって効用を高めるというのが第一で、評価の仕方も効用関数で表すからそこも違うなと思った。個人的に空間を効用関数で表せるのかな、とか思ったりしていて、そうゆうのは面白そう。

黒本：関数を用いて幸福度とかをはっきり出す経済学部にいた川田さんにとって、空間における良さというのが漠然としかわからないのはもどかしい？

川田：もどかしくはないけど、そういうものも数値化しなきゃいけないんだと思う。現実世界は「居心地の良さ」みたいに完全に客観視できないものなんだろうけど、それを数値化する段階も存在するので。ただ、経済に居たときは数値化する部分しかやっていなかったけれど、都市工に来て数値化する対象を自分で作ることができたから、そこは面白かった。

黒本：実際には家賃とかである程度数字として現れてくると思うけど…。ただ、たしかに都市工では尺度がはっきりしな

空間を生活単位で見るという新たな視点を獲得するプロセスが楽しかった。
演習を通して、まちを見るときの視点が変わったことはとてもよかったと思う。

経済学部に居たときは数値化する部分しかやっていなかった。
都市工に来て、数値化する対象を自分で作ることができたことは面白かった。

Studio Works

川田さくら

新たな下町での暮らし方

下町の本質とは、自分以外の人の暮らしを五感で感じられること。その本質を活かすため、新たに、敷地や建物の内外の連続性や多様な市民活動を誘発するような公共空間の創出を試みた。プライベートな空間と公共空間が今までの下町にはない形で融合するよう、様々な工夫を盛り込んだ。

富田晃史

銭湯でゆるっとつながるコミュニティ

新旧の住民や子どもからお年寄りまで多様な地域住民が日常的に交流できる地域のコミュニティの核として銭湯の利活用を考えた。周辺地域との調和および象徴性を求めて銭湯建築は宮型造りを採用し、銭湯周辺の住環境への配慮と入浴後の利用客の溜まり場を創出するために、段差を設けて銭湯を周辺の住棟よりも低くした。また住戸は共用廊下・階段を各住戸で囲むことで、下町ならではの隣人との距離感の実現を試みた。

森下暢彦

緑の手入れを通した生活感の滲出と交流

町屋の良さは通りへ滲み出る生活・活動感や鉢植え等の緑の手入れの細やかさだと考え、これらを活かす事を目指しました。また従来の下町にはない新たな要素として露地面での緑の楽しみ方を、バルコニーを広く取り人工地盤とする事で提案しました。住棟に囲まれる中庭にバルコニーが面する配置とし、緑の手入れから中庭への交流の発展を意図しました。中庭同士や周辺オープンスペースを路地を介して連担させ連続性を確保しています。

都市計画と他の何かが出来るというのは、すごく大事だと思う。
ひとつのことを極めることも大事だけど、「＋何か」っていうのがあると良い。

いということはよく言われることですよね。ほんとに工学なのかと（笑）。

矢吹：数値が見えない所、数値に現れない所をやろうとしている。行政の数字には出てこない部分というのをどうデザインするのか。これをさらに経済にフィードバックするのも面白いかもしれない。

森下：あと、経済は評価は出来るけど、効用関数から建物のデザインが決まるっていうことはないよね。一方で、デザインという側面からは形を決定できる。

矢吹：たしかに最終的に形まで提示できる。実際のプロジェクトでは経済の要因が大きい面もありますが…。周辺環境としても、緑が見えるだけで家賃が上がったりしますからね。そういう視点は面白いですね。

富田：機械には、都市工の演習と似たようなものがあった。メカトロニクスという分野で、「なんでもいいからとにかく面白いと思えるおもちゃを作れ」という演習内容で、その時に先生から何回も言われたのが、「要求機能をちゃんと考えろ」ということ。どういう機能を要求されていて、そこから自分のコンセプトはどういう機能を満たせばいいのかを考えろ、と。僕が作ろうしていたのは、あまちゃんの人形が海の底のウニを取るというもの。ウニを取るためには磁石で釣るのか、ひっかけて取るのかとか、何が機能として一番優れているかを考えなければならなかった。そういう意味では、この演習でも自分のコンセプトを空間に落とすときに、どういう空間が必要なのかを考えるときには役立ったし、コンセプトを考えていくのも苦ではなかった。

黒本：それって集合住宅でいうと何を考えるということなの？

富田：この敷地の中で銭湯をどこに置くかって考えたとき、昔からの住民が使いやすいようにするという要求機能を満たすために、敷地の西側に配置し、さらに入口も西に向けるのが一つの解じゃないかと思った。銭湯の要求機能から周辺の配置を決めていったという感じです。

矢吹：コンセプトがあって、要求される機能があって…。アプローチは違えど、考える筋道は一緒なんだね。

川田：実現する所までを考えているのが工学系。文系、特に法経済になると実現までは含まなくて、実現させるのは政治というまた違う枠組みになってしまう。

黒本：政治ってある意味工学なのかもしれないね。あれ違う？（笑）

矢吹：政策を提言するという意味では似ているのかもしれない。

黒本：経済はどちらかというと、実社会で何かをしようというよりは、仕組みを理解することに重点を置いているのかな？

川田：仕組みをデザインするという感じですね。

ーバックグラウンドの活かし方

黒本：自分のバックグラウンドを活かせたか、という話はどうですか。

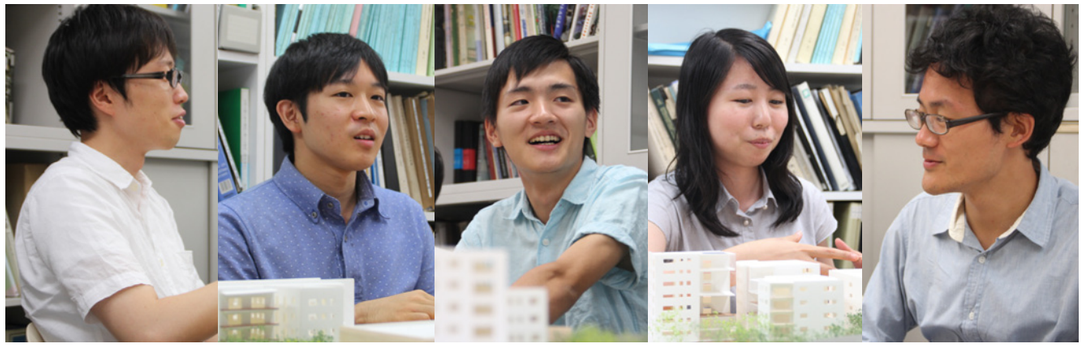
川田：1:200 のスタディ段階で言えば、活かしようがなかった（笑）。元々学部でやっていたのが地方財政だったけど、荒川区は特に財政の問題がなかったので、特に活きたことはなかったかな。ただ、その前の地区分析をまとめる段階では、文系としての積み重ねが結構活かせたし、グループに貢献できたと思う。

森下：僕も地区分析やまち歩きのときは農学部的な観点から貢献できたと思う。「この木は○○っていう木だよ」とか教えてあげたり。半分趣味みたいなものなんですが（笑）、そういう面ではバックグラウンドを活かせたかなと。

矢吹：設計のダイアグラムは緑を尊重している感じはしたよね。

森下：実は気づかないうちに活きているのかもしれないですね。学部で農村のコミュニティとか治水の授業とかを履修していたのが大きい気がする。それをもっと深くやっていれば、都市で活かせたかなと今更思いますね。そこはもったいなかったなあと。

矢吹：都市計画と何かが出来るというのは凄く大事だと思う。実務をやっていても、都市デザイン部門には毎年都市デザインをやってきた人が来るから、交通とか土木の問題が出てきた時に、それを解決するためには他の部門の担当者に聞くしかない。そういう意味で、同じ部門の中に経済とか農学とかそういう他の分野が分かる人がいたらなあ、と常々考えていた。都市デザインの他に何か出来るっていうのはこれから凄く活きてくるし、魅力的だと思う。都市デザインだけやっていてもダメってことはないんですけど（笑）、都市デザインの中でも歴史＋デザインとか、環境に特化した都市について詳しくてそれで設計も出来るとか、色々出来ると良いなあと思う。ひとつのことを極めることも大事だけど、「＋何か」っていうのがあると良いなあ。■



特色ある３つのスタジオ

Three studios with full of originality

都市工学科には、さまざまな演習が存在する。そのなかでも異彩を放つ演習、工学系３専攻が協働して行われる「復興デザインスタジオ」と、４年生が自己の興味から課題を選択する「オムニバス演習」の内容と成果について探った。（編集：M1 砂塚）

復興デザインスタジオ

Urban Redesign Studio

＜課題概要＞

2014 年 8 月 19 日から 20 日にかけての豪雨に伴う広島土砂災害は、74 名の死者となる大惨事となった。

現場を対象とした空間計画が必要とされていることはいうまでもない。地元自治体や地域住民、関係する事業者や計画者などの努力が続いている。広島市は 2015 年 3 月「平成 26 年 8 月 20 日豪雨災害復興まちづくりビジョン」を策定した。このビジョンの策定プロセスを理解したうえで、有効性について議論して検討する必要がある。代替案もしくは付加部分の提案を試みることが、本スタジオの目的である。

被災直後ではなく、半年以上が過ぎたこの時期だからこそ考えられることがあるのではないだろうか。現場での必死の積み上げがあることを、十分に理解する姿勢が求められるのは言うまでもない。「現場への提案」をすることは、一方的な批判をして現場を混乱させるのではなく、今の状況をより良くできるかもしれないという思いからである。

広島土砂災害現場への / からの復興デザイン

復興デザインスタジオを履修して

M1　越野あすか

先輩方から去年のお話を伺い、身構えて履修を決意した復興デザインスタジオ。振り返ると確かに毎日広島のことを考え、徹夜も当たり前で、他専攻の人たちとの議論の進め方や技術力の違いに戸惑うこともありました。しかし一つの災害についてここまで真剣に向き合い、現地の方に発表させていただく機会をいただき、自分の課題への取り組み方に大きな影響を与えることが出来ました。人の生活・心に寄り添うこと、実現性を担保すること、伝えることの大切さと難しさを改めて感じた４カ月でした。

演習担当 TA からのコメント

M2　中島健太郎

昨年度は履修生として関わらせていただいたスタジオに、今年度は TA として関わらせて頂きました。被災箇所が局所的であることや、復興事業が今まさに検討され現場が動いていることもあり、普段のスタジオにはない具体性の高さが非常に高いハードルになっていたように感じます。

また、現地での発表機会も設けられており、常に現場を考えながら手と頭を動かす経験はなかなかできるものではなく、TA として参加していた私も学ぶことが多かったように感じます。

4 年生オムニバス演習

神田スタジオ

Omnibus : Kanda Studio

＜課題概要＞

大都市の既成市街地の再生は、都市計画上の大きな課題である。主要鉄道駅の周辺などでは大規模再開発事業が展開されているが、そのような事業が相応しくないインナーシティ地区では、地区の歴史的文脈を踏まえつつ、多様な主体の個別的な取り組みをうまく束ねながら、持続的に再生する道筋を検討することが求められている。

近年、東京・神田では、SOHO まちづくり構想や REN プロジェクト、CET（Central East Tokyo）、アーツ千代田 3331 等の、地域空間資源を活用したリノベーション主体のまちづくりの取り組みがある。

本スタジオでは、東京・神田の東神田地区を対象として、インナーシティ地区の持続的再生を考える。地区の歴史的文脈えお読み解きながら、そこで展開されている個別的取り組みを理解し、長期間にわたってどのように既成市街地の物理的環境を更新していくべきか、その具体的な空間デザインの内容とそれを実現するための仕組みを提案する。

Re-innovation Pump 東神田から始まるこれからの都市持続再生

外観

外と中がつながる、
いつでも明るいところ。

1,2F は角地部分が全面スケルトンになっており、中からは外の様子、外からは中の様子がよく見える。今回の設計意図とマッチするそのデザインを活かして、統一感が出るよう 1,2F 部分の外壁を全て白で仕上げた。また、清洲橋通りに面した部分は、街道沿いの名残であるお寺を残したさ、より 1F 部分が明るくなりやすいようガラス戸を はめ、アイアン塗装で仕上げた。夜になると光が街路に漏れるので、夜の中でも一層明るい存在となる。

平面図

立断面図

神田スタジオを履修して

B4　小林里磋

正直「ゲスト・シェアハウス」という案自体に真新しさはない。しかし、神田の文脈や都市の抱える一問題の解決案として意味付けていくうちに、光を放ち始め、自信を持って提案出来るようになりました。

また、今まで見てきた諸々の提案のクオリティを達成するには如何程の労力を要するか、先生方・TA さんの熱心な指導から身を以て学びました。

何より地域の方々、神田という土地に恵まれていたのもあって、スタジオ全体として 80％くらいの満足度です。

演習担当 TA からのコメント

M2　今川高嶺

TA というよりは自分も皆と一緒になって東神田の未来を考えて、とても勉強になりました。これまでの演習と違って何をするかも明確でない中で、何が本当に必要で、何を提案すべきかを 0 から考え、そしてその妥当性を論理的に説明するのは難しかったと思います。しかし、神田に新しい住民が増えていく中で、それをどう受け入れるか、ツボ押しから法定都市計画まで睨みながら議論したことは非常に重要だったと思います。小藤田さん、清水さん本当にありがとうございました。

4 年生オムニバス演習

浦安スタジオ

Omnibus : Urayasu studio

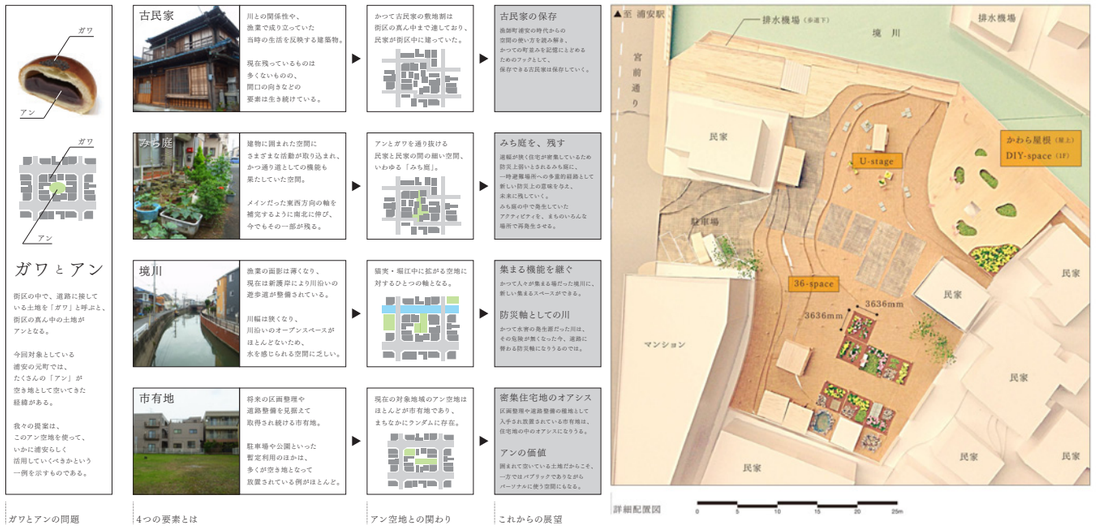
＜課題概要＞

木造密集市街地は、日本近代都市計画の最重要課題として位置づけられてきた。しかし、共同建て替えや不燃化は様々な理由で進まない。首都直下型地震によって、倒壊や同時多発火災が生じ、大惨事になることを、私たちは避けなければならない。そのためには、これまでに実践されてこなかった新しいアイディア、もしくは根本的に異なる方法論が要るのではないか？

何気ない行為の蓄積が浦安元町の景観を、結果として顕現させている。防災を目的とした空間整備と、結果として生み出された浦安元町の暮らしを支える風景は、相互に深く関係を持つ統合したものとしてデザインできるのではないか？

本スタジオの目的は、こうした考え方に立ち、非日常に備える防災上も、日常的な暮らしも、両方を効果的に支える空間提案をすることにある。

猫実・堀江のアン空地はどうなるべきか



浦安スタジオを履修して

B4　三文字昌也

今回のオムニバス演習で最も印象的だったのは、今までの演習ではなかった地元の方々とのつながりです。ふと立ち寄ったギャラリーで予期せず 1 時間も地域のお話を聞いたり、あるいは市役所の方々と呑んだくれたり……。演習という枠を超えて、プロジェクトに参加させて頂いているようで、とても楽しい日々でした。学部の演習の総大成として結果が出たかは分かりませんが、非常にいい経験になったと思っています。ありがとうございました。

演習担当 TA からのコメント

M2　森川千裕

一緒に町歩きをした時に、路地裏の奥にあるお店にどんどん入っていき、オーナーに話を聴きに行く姿勢は、大変感心しました。最終ジュリーでは、どのスタジオよりも早く準備が出来ていて（模型もあるし！）、素晴らしかったです。1 か月という短い期間で、浦安の特徴についてまとめ、提案に落とし込むところまで行うのは、かなり大変だったのではと思いますが、今回学んだプロセスや考え方を、卒論や卒計でも、是非活かしてください。

留学生からの報告

Report from Exchange students

瀬川 明日奈 Asuna SEGAWA

2014.2 - 2015.1
TU Delft Faculty of Architecture
(Landscape Architecture/Urbanism)

2015.2 - 2015.6
Academy of Architecture, Amsterdam
(Landscape Architecture)

建築学科内の模型づくりのためのホール

一留学している大学・学科について教えて下さい。

学科自体は建築学科なのですが、前期にはその中のランドスケープのコース、後期にはアーバニズムのコースに所属しました。大学院からは、学部に比べて国外からの留学生の割合が圧倒的に増え、授業は全て英語で行われています。建築コースの中には複数の設計のコースと、構造設計や設備設計のコース、その他にランドスケープ、アーバニズム、不動産のコースがあります。これらのコースの中の授業は、一部コース外の授業やスタジオを横断的に履修することも可能です。

一印象に残った講義やスタジオはありますか？

ランドスケープの時に印象深かったのは、19 世紀に作られた New Dutch Waterline の要塞のひとつに、新しい機能とデザインを与えるというスタジオです。遺産を保存や放置という道ではなく、積極的に活用する手段について学びました。アーバニズムの時は、ロッテルダムのこれといって特別ではない住宅地を対象に、分析し、浮き彫りになった問題に対して、サスティナビリティを切り口としてデザインする、というスタジオが印象に残っています。網羅的に分析する力や、都市デザイナーとしてサスティナビリティをどうデザインに組み込むか、その方法を学びました。

一日本の大学と違いを感じるところはありますか？

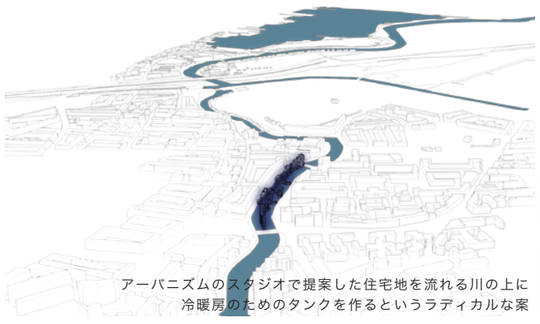
まず、留学生の受け入れ体制が整っている点が大きな違いだと思います。前述したように講義もスタジオもすべて英語で行われるので、留学生も学びやすい環境となっています。また、修士課程といっても、研究室という括りはなく、ほとんどの学生がスタジオで設計課題をこなし、設計する能力を培うことが主な目的となっています。一方、日本に比べてあまり現場に根付いたプロジェクトは多くないので、対象地の問題を実際的に解決できる機会は比較的少ないです。

一現在はインターンシップをされているとお聞きしています。どのようなことをやっているのでしょうか？

HOSPER landscapsarchitectuur en stedebouw という事務所で、図面作成、パース作成、デザインの検討、模型制作、お昼ご飯の買い出しなどまでを含めて、インターンシップをしています。プロジェクト対象地は公園や広場、農地、港、ショッピングセンターの駐車場、住宅地など多岐に渡ります。

一研究室にも留学を考えている学生がいるかもしれません。最後に何かメッセージをお願します！

私の場合は、学部を卒業する頃から漠然と留学がしたいと思っていて、修士 1 年目の夏頃から準備を進めながらも、本当に留学するのか実感が湧かないまま、気付いたらオランダにいました。なんとなく決めた留学でしたが、こちらに来ると、自分が想像していた以上の体験をいくつもすることができ、留学をして心底よかったと思う日々です。工学部の留学提携校の選択肢の幅は広く、またたくさんのチャンスがあるので、少しでも関心があれば、ぜひ試してみてください。


アーバニズムのスタジオで提案した住宅地を流れる川の上に
冷暖房のためのタンクを作るというラディカルな案

インターン先の事務所があるシェアオフィス
昔は列車の車庫として使われていたものをリノベーション

福永 友樹 Tomoki FUKUNAGA

2014.9 - 2015.9
University College London
(The Bartlett Development Planning Unit
Urban Development Planning)

UCL のメインの校舎

一留学している大学・学科について教えて下さい。

現在留学している UCL はロンドン中心部に位置する総合大学です。1826 年に設立された当初のイギリスの大学教育はまだキリスト教の影響を強く受けており、無宗教を掲げた UCL は他と比べて非常にオープンな大学でした。その意味で他宗教や国籍の学生の受け入れにも積極的で、日本人では伊藤博文や夏目漱石といった著名人が卒業生としています。私のクラスも実に多様なバックグラウンドから生徒が集まっており、30 人いるクラスに 22 ヶ国籍の生徒が集まっています。

僕が所属しているのは、プランニングスクールの中でも途上国の開発学を専門的に扱っている学科です。急激な都市化とグローバライゼーションという文脈のなかで、社会正義の通じた持続可能な開発の手法について学んでいます。

一印象に残った講義やスタジオはありますか？

今年の 1 月から 6 月にかけてタンザニアにおけるコミュニティエンパワメントのプロジェクトで現地に赴き、参加しました。都心部の港拡張に伴って強制移転を余儀なくされ、新しく自分たちの住宅団地を開発するために資金から土地までを自ら見つけて移り住んでいる Chamazi の人々の生活向上手段を共に考えるという内容でした。彼らの手助けをしている現地の NGO(CCI) と、よりよい生活環境獲得に向けてハウジングファイナンス、就労、強制移転に関する条例策定の三分野において戦略提案をさせていただきました。

ダルエルサラームのスラム

一日本の大学と違いを感じるところはありますか？

色々と有りますが、やはり周囲の人々の多様性を一番の大きな違いとして感じています。先程も述べたように世界中の人々が集まっている学科、都市なので、生活のあらゆる場面で自分と周囲との違いが感じられること、また世界の様々な場所の話しが聞けるのが面白いです。大学院であれば 30 歳前後の学生が多いので、社会を経験されている方の意見を聞けることもまた刺激的です。

一研究室にも留学を考えている学生が要るかもしれません。何かメッセージをお願します。

学問においてはもちろんですが、それ以外のことに関しても考え方が広がったように感じています。考えを深めるためには都市デザイン研究室の環境が素晴らしいように思いますが、広げるという意味では留学はとても手助けになると思いますのでお勧め致します。また語学に関しましては、英語力が足りていないことは教授の方々も承知の上でカリキュラムを組んでくれましたし（ようは宿題がたくさんです）、個別に英語の授業を提供してくれもしますので、その点はあまり心配する必要が無いと思います。

（編集：M2 中島健）

22 ヶ国籍の生徒が集まるクラスの集合写真

Chamazi に隣接した道路

個性あふれるメンバーが加わりました！

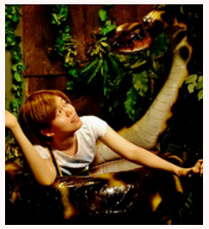
Five new menbers come!

今年も、卒論生が研究室に配属になりました。Web Magazine にて卒論生の歓迎会の報告もしておりますが、個性あふれる５人のメンバーが加わります！１年間同じ研究室で切磋琢磨しながら、卒業論文・設計に取り組む彼らを紹介します。

（編集：M2 中島健）

質問項目
① 出身地 ② 趣味・特技③ 小さい頃の夢
④ 入学から今まで一番がんばったこと
⑤ 研究室を選んだ理由 / やりたいこと
⑥ 好きな都市計画家 / 建築家

松田 季詩子 Kishiko MATSUDA



多方面でセンスを感じさせる。あと、カップ麺が大好き。

ー by 中村

① 中野区中野 ② 小型ハープとイラスト
③ 手術すること ④「色々取り組んだこと」
⑤ デザインを通じて広い分野に触れられそう・成果が人の間に立ち現われやすそうだから。古今東西の中庭についてよく調べたい。
⑥ フランチェスコ・ボッロミーニ

中村 慎吾 Shingo NAKAMURA

旅行好きで、よく一人で日本全国旅してる。バスにも詳しい。バイト４つ掛け持ち。多才。

ー by 藪田

① 奈良県 ② 地図を見ること、出かけること
③ 気象予報士 ④ アルバイトいくつか
⑤ 諸要素の集合体であるまちの景観と正面から向き合いたいという思いから研究室を選びました。が、やりたいことはこれから絞ってゆきます…。⑥ SANAA

三文字 昌也 Masaya SAMMONJI

キャパと奥は海より深く、人間力は山より高い。ルネサンスでもスラムでも活躍しそうな不思議な方です。

ー by 松田

① 神奈川県大和市中央林間
② 泡と液体の黄金比率を一発で完璧に実現するビール注ぎ
③ 特に考えていませんでした
④ ベネチアで iPhone を盗まれた際、ホテルの防犯カメラから犯人を割り出して軍警察に取り返してもらったこと
⑤ デザ研の先生と先輩のみなさまがすばらしく魅力的でした。これからどうぞよろしくお願いいたします。
⑥ ドミニク・ペロー

籔田 航平 Kohei YABUTA

一言一言がちゃんと脳を介している（中村くんとのやり取りは例外）。淡々としているように見えるが、実はそんなにテンション低くない、犬。

ー by 小林

① 広島 ② 剣道 ③ 学校の先生
④ 英語講師のアルバイト（大学２年の時から）
⑤ 自分が住んだことのある街で設計がやりたかったのだが、スタディ段階でいろんな課題が見えてきてまだ方向性が定まっていない。⑥ 磯崎新

小林 里瑳 Risa KOBAYASHI

楽しそうなことはとにかくなんでもやってるミスコン出場者。生き様がかっこいいです。そして強い。強すぎる。

ー by 三文字

① 大阪府豊中市
② 読書と写真と髪型・ファッションをコロコロ変えて人に面白がってもらうこと
③ 黄色い自転車に乗って仕事に行くこと
④ 専門始まってから取り組んだコンペ
⑤ 尊敬できる同期、先輩、大先輩がいたから。
人と都市と自然の関わり。河川や道路用地などの未・低利用地の利用とマネジメント。
⑥ 磯崎新、大谷幸夫

暑気払い BBQ ！

BBQ Party Night!

７月 23 日（土）の夜、暑気払いの BBQ パーティーを開催しました。その様子をコンパ係の M1 川田さんに紹介してもらいました。

（編集：M2 中島健）

７月 23 日（木）、14 号館 10 階のテラスで暑気払い BBQ を行いました。当日はお天気が心配されましたが、最後まで崩れることなく、先生方をはじめ学部４年生から OB まで、さらに地域デザイン研究室のメンバーも参加し、盛会のうちに終えることができました。前日 22 日に修士１年のジュリー、当日は修士２年のジュリーがあり、特に修士の学生は疲労感と開放感に包まれ、笑いの絶えない BBQ となりました。普段研究室のメンバーが一同に会する機会が少ない分、研究の話から恋愛相談まで話に花が咲き、時間が過ぎるのがあっという間に感じられたのではないでしょうか。締めのあいさつでは、中島直人先生から、夏休み期間中の学生の成長に期待する旨のお話がありました。来学期も引き続き、研究室メンバー間の交流が深まる場を設けていく予定です。年末には忘年会もありますので、OBOG の方々の積極的なご参加をお待ちしております。（川田）

information

７月のウェブ記事

まちサポ審査会・助成決定！
都市工＋チュラロンコン大学 国際 WS デジタル展示会@日本橋
是非ご覧下さい：http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/

８月の予定

８月３～13 日	UEHAS バンコクワークショップ
８月３～６日	三国 PJ 現地調査
８月 24～31 日	三国 PJ 集中調査期間
８月 29 日	三国 帯のまち流し

編集後記

中島健太郎

夏学期は遅まきながら、自動車免許の教習所に通っていました。実際に車に乗るようになって、町の中の標識とか道路上の表示とか、そういったものを驚くほど見ていなかったということに気づくのですね。そういえば、本号にも特集されていますが、3 年前の夏、大変苦しみながらやった集合住宅設計の成果物には、路側帯すら無く、描いた道路標示は横断歩道くらいのものでした（今なら「横断歩道あり」の道路標示は入れますね）。

ちなみに、路上教習では高島平団地の周りをぐるぐる回っていたのですが、僕の中では高島平は「道路が広いが子供が比較的多いので、速度制限は 40km/h でなく 30km/h になっている場所」としてインプットされました（一回怒られました）。

URBANDESIGN
LABORATORY